

平成22年第3回(6月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序

- |   |     |       |
|---|-----|-------|
| 1 | 7番  | 草賀章吉君 |
| 2 | 5番  | 柴田正美君 |
| 3 | 2番  | 鈴木久男君 |
| 4 | 4番  | 榛葉正樹君 |
| 5 | 19番 | 竹嶋善彦君 |
| 6 | 9番  | 川瀬守弘君 |
| 7 | 20番 | 高木敏男君 |
| 8 | 8番  | 中上禮一君 |

平成22年第3回(6月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序(予定)

---

6/29 AM 7番 草賀章吉君

5番 柴田正美君

---

PM 2番 鈴木久男君

4番 榛葉正樹君

---

6/30 AM 19番 竹嶋善彦君

9番 川瀬守弘君

---

PM 20番 高木敏男君

8番 中上禮一君

一般質問通告要旨	議席番号	7	氏名	草賀章吉
----------	------	---	----	------

1 産業の振興と雇用について (答弁：市長)

- (1) 菅内閣の「強い経済」の実現に対する率直な感想について伺う
- (2) 市内の主要企業や産業別動向について伺う
- (3) 国、県への期待と市として取り組む課題は何か

2 中山間地域の振興について (答弁：市長)

- (1) 農林課「中山間振興係」の課題認識と活動方針について伺う
- (2) 「農商工連携室」や「協働共生室」との関わりや活動について伺う

3 生涯学習まちづくり課について (答弁：市長)

- (1) 生涯学習の推進部門の一元化により人づくり、まちづくり、自治活動、文化振興と一気に守備範囲が拡大し過ぎではないか

4 「60才年輪の集い」について (答弁：市長・教育長)

- (1) 開催のねらいと規模、実施内容について伺う

一般質問通告要旨	議席番号	5	氏名	柴田正美
----------	------	---	----	------

## 1 都市計画税の見直し問題について

(答弁：市長)

- (1) 大須賀の本谷に比べて倉真の松葉地区への農地や山林課税はさらにおかしいと、答弁されたので見直し案の中にこれらの地域が含まれているのか。初馬の西山地区も同様におかしいと思われたか。白地の農地も同様と思われたのか伺う
- (2) 総務省の資料によると、線引き自治体では市街化区域への課税が96%なのに、非線引き自治体では用途地域に対する課税が40%、田舎に居住する住民が線引きでは4%なのに、非線引きでは60%税金を出さざるを得ない。不公平と感じることを、市長はどのように思うか
- (3) 掛川市は都市計画区域の指定さえしていれば、事業計画のないところ、今後とも全く事業を行わないところも課税できると考えているか。見直しするのですから、課税できないと考えたのですか
- (4) 市街化区域を設定してある自治体は10年以内に市街地化しないところは課税しない努力が必要だが、非線引き自治体は関係ないという前々回の答弁は撤回し、702条の趣旨は尊重でいいのか。総合的に整備・開発・保全。一体の街づくりだから、全域課税は当然ではないのですね。なぜなら見直すのですから
- (5) 行政区域面積に対する都市計画区域の割合は、静岡17%、浜松31%に対して、掛川は80%。原田・原泉以外は全部です。80%を全部市街地にする、あるいは市街地以上に都市計画事業をやるところ(=課税区域)になどと考えること自体が無理があるし、自然と農・住・商・工調和のとれた都市づくりなどと言ってみても、702条の法の趣旨と矛盾することは明白ではないか伺う
- (6) 課税区域を縮小した浜松市や富士市、廃止した牧之原市は違法行為をやっているとも言うのか伺う
- (7) 地籍調査がおこなわれている旧掛川地域は課税客体も定かでない。こうした実態をどう考えるのか
- (8) 有識者会議から汲み取るべき内容、どのように認識しているか。当局見直し案への疑問を感じないか。受益がないところへの課税は除外を基本にすべきではないか

## 2 就学援助について

(答弁：教育長)

- (1) 受給率は静岡県が4.45%で全国最低、掛川市はさらに低い2.65%。実態はどのようなか。なぜこんなに低いのか見解は、改善するのか伺う
- (2) 新入生に配布したモデルケースによれば、その基準給与収入額は母35歳子供2人(1・4年生)－280万円。祖父70歳祖母65歳母33歳子供2人(4歳・小2)－340万円となっていた。私が職員と一緒に試算したところ280万円→303万円(23万円増)、340万円→367万円(27万円増)と異なった。金額の違いの理由は何か。誤った低い金額でのお知らせは利用を抑制するためか伺う
- (3) ちなみに母31歳子供1人(8歳3年生)で基準額はいくらか伺う
- (4) 保護者が直接学校だけでなく市役所にも申請ができるようにすべきでは。家庭事情にも配慮し、校長の代理申請も必要ではないか見解を伺う
- (5) 周知が不十分では。わかりやすさ、親切さに心掛け改善はいかがか
- (6) 2005年、就学援助法施行令から「民生委員の助言を求めることができる」の文言が削除されている。民生委員の関与をやめてはどうか
- (7) 支給対象について拡充する考えはあるか。2010年政府予算に新設された3項目への対応はいかがか
- (8) 菊川市並みの支給基準額にすることは考えないか伺う

## 3 中小業者支援について

(答弁：市長)

- (1) 市長の行政報告にある企業支援制度に住宅リフォーム促進事業を検討対象に加えることを提案したい。全国各地で行われているこの事業は経済効果は数十倍、この不況時だからこそ検討に値すると考える。見解を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨	議席番号	2	氏名	鈴 木 久 男
-----------------	------	---	----	---------

1 茶の凍霜被害と掛川茶の振興策について (答弁：市長)

- (1) 県では「八十八夜の茶」ブランド化に向けて販売戦略を築きたいとのことだが、市としての支援策や取り組みについて伺う
- (2) ブランド委員会の活動と茶商、JA、市が一体となって掛川茶の振興を図るべきと思うが、その取り組み方法を伺う
- (3) 利子補給制度の他、市としての経営支援策は考えられないか
- (4) 姉妹都市を提携した奥州市との交流の中で茶のPRや販路拡大の具体策はどのようなことがあるか

2 指定管理者制度について (答弁：市長)

制度導入の狙いが運営費用と職員数の削減にあることから、行政改革の面だけが過剰に着目される傾向になっていないか。公募によりプレゼンテーションを経て業者選定される中で起こり得る問題について伺う

- (1) 公募が原則であるが、長年培ってきた運営ノウハウを持った団体が切り捨てられる可能性はないか。また、運営ノウハウを持った職員を活用できる方策はないか
- (2) 民間企業の運営管理により市民サービスが低下しないか。また、契約期間満了後の運営委託の継続はどうなるのか
- (3) 管理する課と施設を活用した事業を実施する課が違い複数になる場合があるが、責任の所在が明確となるよう所管窓口を統一すべきでないか
- (4) 指定管理者制度実施後の問題課題はどのようなことがあったか
- (5) 正規職員の雇用が極めて困難になり、サービス低下につながるおそれがあるが、公募における判断基準を定めてあるか
- (6) 公募を実施した施設の運営状況はいかがか

3 都市計画税見直しについて (答弁：市長)

- (1) 目的税である都市計画税が、一般の道路整備や下水道整備財源として、幅広く使われることは税の目的から逸脱していると思うがその見解は
- (2) 応益性の高い事業に等しく使われるなら、見直し案の9番目にある「都市計画税を廃止して、固定資産税や住民税を超過課税する方法」をしっかりと検討すべきではないのか

#### 4 下小笠川改修の促進について

(答弁：市長)

- (1) <sup>しょうすいろ</sup>捷水路 から上流2km区間の整備は「一級河川の直轄区間における河川整備計画」策定が大前提とされるとのことですが、その予定と改修着工の見込みを伺う
- (2) 下小笠川はもとより、本川の菊川も直轄河川から県管理河川に格下げすると聞いているが、その真意と対策を伺う
- (3) 菊川改修期成同盟会の構成市として国に対して、その実現について強力に要望すべきと考えるが市長の見解を伺う

一般質問通告要旨	議席番号	4	氏名	榛葉正樹
----------	------	---	----	------

1 観光振興について

(答弁：市長)

- (1) 平成18年に1市2町の観光協会を統合し、新掛川観光協会が組織され、事務局は掛川市商工労働観光課におかれている状況である。国内外からの交流人口の増大を図る上でも、観光協会を独立させ、主体性を持たせて新たな観光戦略を打ち出していく必要があると考えるが、今後の展開を伺う
- (2) 掛川市の知名度、イメージを向上させ、掛川ブランドの確立を図るための戦略をどのように考えているか、農商工連携との関わりはどのようにしているか

2 スポーツ振興について

(答弁：市長、教育長)

- (1) 毎年開催される市町村駅伝の当市の成績は低迷しているが、原因はどこにあるのか。今後のスポーツ振興の取り組みについて伺う
  - ①陸上競技施設整備について
  - ②陸上競技指導者の育成について
  - ③陸上競技普及活動について

一 般 質 問 通 告 要 旨	議席番号	19	氏名	竹 嶋 善 彦
-----------------	------	----	----	---------

### 1 新病院建設・地域医療について

(答弁：市長)

- (1) 新病院が開院するまでに解決すべき問題・課題は何か。また、その対応方法は。新病院の特色と総建設費、起債額等財政負担をどのように算定しているのか伺う
- (2) これからの医療は、県の地域医療再生計画にもあるとおり、中東遠の医療圏域で考える必要があるが、具体的な連携方法はどのようにするのか。また、その課題は何か伺う
- (3) (仮称) 地域健康医療支援センターが10月1日にオープン予定であるが、多職種の連携や市民PRなど、その準備状況は。また、在宅医療は在宅での看取りまで実施することを目指すべきと思うがいかがか
- (4) 現病院の移転後の土地利用をどのように進める予定か。また、具体的見通しを伺う
- (5) 在宅介護受け入れ家族に対する負担軽減のための対応策について伺う

### 2 農業施策について

(答弁：市長)

- (1) 凍霜害で大きな被害が発生したが防霜ファン等への支援事業が必要と思うがいかがか伺う
- (2) 茶樹が全般的に高齢化していて改植の推進が急務と思うがその対応策について伺う
- (3) 有害鳥獣(イノシシ等)の被害が増大しているが一向に対策が進んでいない。その対応策について伺う

### 3 シルバー人材センターについて

(答弁：市長)

- (1) 市長は市の外郭団体は基本的には自立するようと言っておられるが、シルバー人材センターに対しても同様の考えか伺う
- (2) 公益法人であるシルバー人材センターでは収益事業に制限があり民間的な発想での事業展開は不可能と考えるがいかがか
- (3) シルバー人材センターと行政が一体となった高齢者の生きがいづくりや健康づくりに積極的に取り組むべきと思うがいかがか

一 般 質 問 通 告 要 旨	議席番号	9	氏名	川 瀬 守 弘
-----------------	------	---	----	---------

1 浜岡原発の安全性について

(答弁：市長)

- (1) 5号機の安全性に対する国の審査は3・4号機も含めて保安院で実施されている。中電の調査結果は現在、国が検討中の段階である。中電の実施した市民説明会で「東海地震でも大丈夫」という説明について、市長の見解を伺う
- (2) 浜岡原発の安全性は国と中電が責任を負うべきです。5号機の運転再開は国の結論が出てから改めて国による市民報告会を聞き、実質的な「事前の了解」を得るべきと思うが、市長の見解を伺う

2 掛川市立病院の現状について

(答弁：市長)

- (1) 掛川市立病院の医師数・診療科の休診状況の現状と見通しはどうか
- (2) 市民に安心できる医療を提供するうえで医師確保は絶対条件です。医師確保のための努力はどのようにしているか伺う

3 「新病院計画」「地域医療対策」について

(答弁：市長)

(1) 救急医療について

①二次救急に特化する考えであるが、掛川・袋井両病院が支えてきた一次救急についてはどのように対応するのか伺う

②一次救急を開業医だけで支えられるか

(2) リハビリ機能について

①新病院のリハビリ部門は急性期リハに特化している。外来通院は連携先医療機関や在宅サービス機関、福祉施設との連携としている。回復期病棟が新病院にはない。退院後の通院、リハビリ施設は開業医や福祉施設等で対応しきれるか

②在宅療養患者の急性増悪の受け入れについて伺う

4 障害のある子どもたちの教育条件を改善するために (答弁：市長、教育長)

- (1) 県立特別支援学校の誘致について、4月11日の市長の声明発表、翌日の知事定例記者会見において、設置の考え方が発表された。設置時期はいつになるのか伺う
- (2) 昨年11月、県教育委員会より、特別支援学級設置の基本方針として拠点校という方式が示された。特別支援学級の児童数は平成21年度から22年度へかけて25名増えており、1学級の人数も年々増加傾向にある。特別支援学級の抜本的な拡充が必要と考えるが、掛川市ならではの設置方針として現在の特別支援学級の存続・拡充こそ必要と思うが見解を伺う
- (3) 通級指導教室の条件整備を抜本的に強化することが必要と思うが見解を伺う

5 放課後児童クラブの整備・運営について (答弁：市長)

- (1) 運営主体はさまざまであるが、指導員の配置基準、労働条件、社会保険など統一的な基準が必要ではないか伺う
- (2) 施設・整備環境の抜本的な改善が必要と考えるが見解を伺う

一般質問通告要旨	議席番号	20	氏名	高木敏男
----------	------	----	----	------

1 特別支援学校建設の期待について

(答弁：市長、教育長)

- (1) 県の施設であるが、掛川市として受け入れ人数や木の文化を活用した建物などの要望を出していいのか
- (2) 学童保育の場を隣接地に新たに確保できないか

2 韓国<sup>かんこう</sup>江原道横城郡との交流について

(答弁：市長)

- (1) 姉妹都市の対象をなぜ横城郡としたのか。今後、姉妹都市提携に向けてどのような日程で進めていくのか伺う
- (2) 行政、議会だけでなく市民との交流をどう進めていくのか伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨	議席番号	8	氏名	中 上 禮 一
-----------------	------	---	----	---------

1 地域生涯学習センターとまちづくりについて (答弁：市長)

(1) 行政の原点は地域であり、地域づくりの原点は生涯学習にある。地域の課題は地域に詳しい住民で解決する。この力を生み出すことが新しい公共には必要である。市長の描く希望のみえるまちづくりの実現に向けて、地域生涯学習センターをまちづくりの拠点とすることは重要な施策であり、南部地域への設置についての考えを伺う

(2) 地域づくりに対する一般交付金制度について考えを伺う

2 学校図書館の環境整備について (答弁：教育長)

(1) 掛川市の学校図書館司書の配置は市全体で3人という厳しい状況で、学校図書館が図書館として機能する環境ではない。今後の学校図書館司書の配置についての考え方を伺う